
ハートキャッチプリキュア～転生者は心を持たない者～

??機関

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ハートキャッチプリキュア（転生者は心を持たない者）

【Nコード】

N1853W

【作者名】

？？機関

【あらすじ】

これは、とある少年が神様の手違いで殺され、転生する話。

だが、少年は他の転生者のような強大な力を求めず、ただ二つの願いを神に頼んだ。

その願いとは……

プロローグ（前書き）

将「つい、書きたい衝動にかられたんだ・・・」

？「みんな最初はそう言うんだ・・・」

将「まだ他の小説が完結してないのに、なにやってんだ俺。」 O R Z

？「だいたい、原作知ってんの？」

将「知らん!!」（キリッ

？「心配だ・・・」

将「それでは、始まるぞ!」

？「まあ、始まるってハナシだ。」

プロローグ

どうも皆さん始めまして。

さっきまで中学2年生だった「鬼山 悟^{おにやま さとむ}」といいます。

なぜ過去形といますと・・・

～回想～

「ふあ～」

朝、俺はいつもどおりに学校へ登校していた。

昨日はKH^{キングダムハーツ}を1～bbsまでずっとぶっ通しでプレイしていたから、
寝不足だ・・・

しかし、やはり??機関は最高だ!

特に??のゼムナスが大好きなのだ!!

bbsをプレイして、ゼムナスがゼアノートにのっけられたテラという事がわかったときは驚愕したものだ。

顔はなんとなくゼムナスに似ているとは思っていたが、いやはや驚いた。

とにかく、俺は??機関のファンなのだ!!

と、俺が頭で??機関について考えていた。

横からトラックが向かっている事も知らずに。

考えがまとまって、改めて??機関は最高だと結論したときはすでにトラックは俺との距離・・・3センチ。

次の瞬間には、俺の体に激痛が走り、意識を失った。

～回想終了～

「え」

なにこれ？

え??機関のこと考えていてトラックに気付かなくて↓そのまま
トラック進行↓俺気付かない↓トラックも気付かない↓俺オワタ
(^o^)/ ↓白い空間にいる↑今ここ

え?どゆこと?俺死んだの?

「そうじゃ。」

白い空間に渋い声が響く。

「え?」

声がする方を向くと、そこにはてっぺんハg「ハゲちゃうわ!!」
・

・。

「なんで声に出してないのにわかったんだよ。」

「ふおっふおっふお、わしは神じゃ!」

後ろにドーンッ!!とかついてそうな感じで胸を張っている爺さん。

「ああ、爺さん。救急車のぼんご」わし頭おかしくないわ!!」・・
声がかい。」

この爺さん、いちいち声がかい。

「で?あんたが神様だとして、俺みたいな一般人に何のようだ?」

「悪びれもしないとは、鬼山悟・・・恐ろしい子っ!!」

なんでそんな古いネタ知ってんだよ、ていうか・

「なんで俺の名前知ってるんだよ。」

「神様だから☆」

パチンッ!と爺さんが気色悪いウィンクをしてきた。

「・・・・・・」

俺は黙って、爺さんに近づき、

「あれ?どうした?あ!わしが可愛いから襲おうとしているのじゃ

な？ いやゝん襲われ「黙れ」背骨にいまだかつてないほどの痛みが
っ！！！！！」

ちよいとしばきました、マル

「ううゝ、ひどい目にあった。」

「さっさと用件を話せ。」

「じ、実はお主は死んだ。」

「それで？」

そんなことは、薄々感づいていた。

あのスピードで生きていられる訳がないからな。

「お主はまだ死ぬべき人間ではなかった。」

「？ どういうことだ？」

「実は、わしの部下の手違いでお主を殺してしまったのじゃ。」

「・・・・・・そうか。」

「・・・・怒らぬのか？」

「別に、爺さんのせいじゃないんだから、爺さんを怒ることはない。」

」

「・・・すまぬ。」

爺さんが悲しそうな顔で言ってきた。

「それでのう、お主には別の世界に転生させる事になってのう。」

「ほうほう。」

「それでお主に力を渡すのだが、三つ願い事を叶えられる。」

「ふむ。」

やはり、ここはあれでしょ。

「まず、一つ目はKHの???機関のメンバーの武器を全部と、それを扱える技術。」

「OKじゃ。」

「二つ目は・・・俺をノーバディにしてくれ。」

「なっ!?!」

爺さんが驚く、そりゃそうだろうな。

自分からノーバディになる、つまり心を手放すということ。

「・・・いいのか?心がなければ、大変だぞ?」

「ああ、いいんだ。」

「・・・わかった。」

爺さんが俺の胸に手を当て、手を離すと俺の体からハートの形をした物が出てきた。

「これが、俺の心か・・・」

確かに、これが出た瞬間に俺の中の感情がすべて無くなった。

楽しい、悲しいなどの感情は記憶にあるだけ、本当に何も感じない。

「これが、ノーバディの体・・・」

「そうじゃ、それが「存在しない者」「誰でもない者」「抜け殻」などと言われるからだじゃ。」

これが、ゼムナス達が望んだ体か・・・

「それでは、そろそろ転生させるぞ?」

「ああ」

「ほいっとな」

爺さんがなんとも間抜けな声を出した瞬間。

パカッ!

「はえ？」

床が開いて俺も間抜けな声を出してしまった。

「それではのう」

意識が薄れていく中、心を手放した俺でも爺さんにムカついた。

プロローグ（後書き）

将「ご感想、ご指摘お待ちしております。」

悟「そんじゃま、またな」ノシ

主人公設定（前書き）

将「前書きは特に無し！」

主人公設定

名前…転生前 鬼山おにやま 悟さじろ

転生後 ゼアノート 理由（名前が好きだからw）

容姿…キングダムハーツbbsのテラを白髪にした感じ。

身長…183cm（結構長身）

体重…65キロ

武器&能力…キングダムハーツに出てくる??機関のメンバー全員の武器（キープレードも可）、その武器を操る技術。闇の回路使用可能

詳細…転生前は普通のアニメ・ゲーム（特にKH）が大好きな中学2年生だった。

神の部下の手違いでトラックに轢かれて死んでしまい、神によって能力をもらって転生した。

そのときに、神に自分をノーバディにしてほしいと頼み、ノーバディ化。

本当は後一つ願い事が残っている。

転生してからは、KHの機関が着ていた黒いフード付のコ

ト、中は黒い半そでの黒い服を着ている。（簡単に言えば、機関の服を想像してくれればいい）

転生先がプリキュアの世界とは知らずに、生きている。というか、プリキュア自体ぜんぜん知らない。

ノーバディになってから、寿命がなくなったので結構長生きしている。

原作開始時100歳を超えた。

周りにばれないように、町を転々としている。

砂漠の使徒とは敵対している。（一方的に敵視されているだけ）

CV..置鮎龍太郎

主人公設定（後書き）

将「どうだ!!」

ゼアノート「別に」

将「次回もよろしく頼む！」

ゼアノート「頼む」ノシ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1853w/>

ハートキャッチプリキュア～転生者は心を持たない者～

2011年10月9日15時04分発行